

# 読谷村第3次 都市計画マスタープラン 【概要版】

## 1 はじめに

### 都市計画マスタープランとは

「読谷村都市計画マスタープラン」は、読谷村の全体的な基本構想を示す「ゆたさむらビジョン（第5次総合計画）」の将来像の実現を目指し、土地利用や都市基盤の整備など都市計画やまちづくりの分野において、その基本的な方針を示すものです。

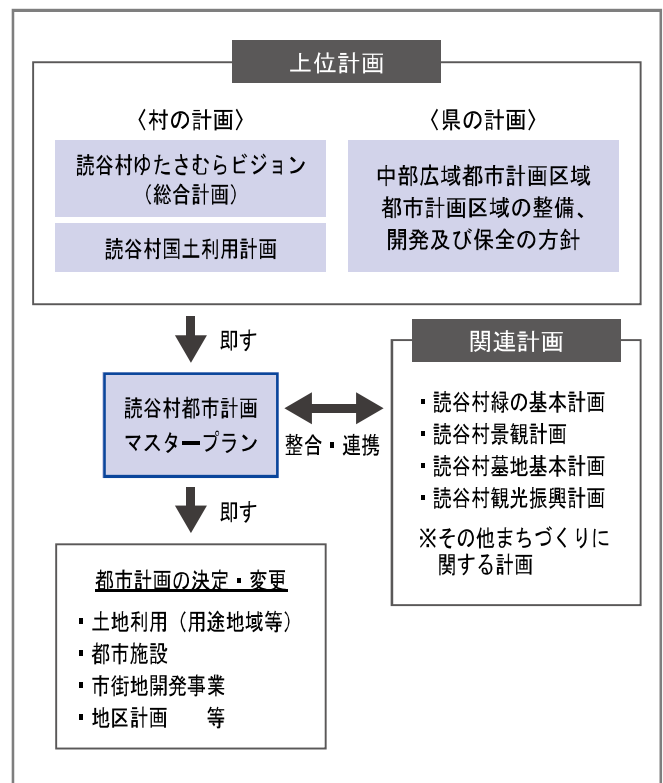
### 都市計画マスタープランの役割

本計画は、本村の20年後のむらの姿を見据え、今後の10年間のむらづくりに関する方針を定めます。

本村のむらづくりに関する取り組み（道路や公園の整備、景観づくりなど）は、本計画に基づき、実施します。

（本計画の目標年次：令和12年度）

### 本計画の位置づけ



### 都市計画マスタープラン（概要版）の構成

#### 1. はじめに

計画の目的や位置づけ、期間について

#### 2. 基本構想

本村の将来像と基本的な方針、各分野の方向性

#### 3. 地域別構想

地域ごと（小学校区ごと）の方向性

#### 4. 実現化方策

計画の実現に向けた進め方

## 2 むらづくりの基本構想

### ① 将来像：長期に亘り根底を貫くふへん(普遍・不変)的な考え方

むらづくりの将来像について、第1次都市計画マスタープラン、第2次都市計画マスタープランの長期的な骨格は現在もなお継続しており、その考え方を踏襲し「ひほうかまんくがにかん飛鳳花蔓黄金環」とします。

【将来像】 ひほうかまんくがにかん  
**飛鳳花蔓黄金環**

ひほうかまんくがにかん  
＜飛鳳花蔓黄金環＞

読谷村は残波岬を頭とし東シナ海に飛びたつ鳳である。読谷岳から多幸山をへて座喜味グシクにいたる山並は、飛翔の風をはらむ羽である。鳳はサンゴの花蔓を引き、海の花畑でニライカナイから来訪する嘉利吉を迎える。

この嘉利吉を、座喜味グシクを頂きとする黄金環で受け止める。座喜味グシクは風を宿す腰当であり、大路のカジマヤーでは人・物・文化が結ばれる。そして西に賑いを置き、東に肅として山裾を養い長田川の恵みを活かし過ぎたるを流す。



### ③ 基本方針：大まかな方向性。どのように動くか示したもの

#### ① 読谷村を彩る自然や環境、村民の誇りとなる歴史や文化を享受し、継承するむらづくり

自然や環境、歴史や文化を良好な住環境の形成や観光資源として享受し活用するとともに、その保全を図り、未来へ継承し、読谷村の大切な財産とします。

#### ② 地域を守り、地域を向上させるむらづくり

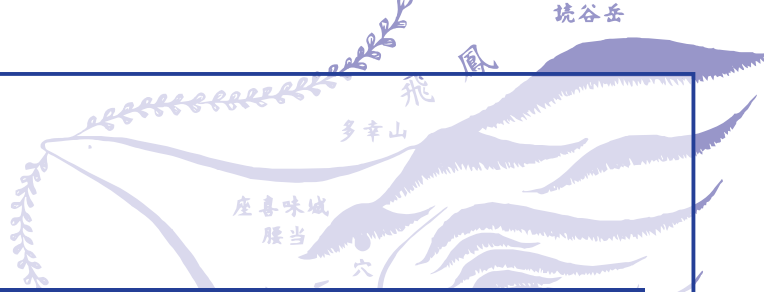
将来においても、現在の生活環境や利便性を維持し、さらに地域の活力を向上することができるような計画的な土地利用や都市構造を目指します。

#### ③ 住み続けられる・住み続けたいと思うむらづくり

今後も読谷村に住み続けられる・住み続けたいと思う良好な居住環境の形成や安全・安心なむらづくりを進めます。

#### ④ 協働のむらづくり

読谷村をよりよく運営していくために、村民がそれぞれの立場で役割を担い、村民と村が協働するむらづくりを進めます。



## ② 基本理念：理想とする姿・常に念頭に置くべき基本的考え方

将来像「飛鳳花蔓黄金環」に基づき、これまのでむらづくりは進められてきましたが、一方で、本村においては村民センター地区の整備推進、人口減少の予測・高齢化の進展、社会全体ではSDGsの推進など大きな変化がありました。これらのことから、本村のむらづくりに求められるものも、「整備」するむらづくりから、成熟都市としてSDGsの考え方を踏まえた「持続可能」なむらづくりに変化しつつあります。そのため、今後のむらづくりにあたっては、将来像「飛鳳花蔓黄金環」を引き継ぎながらも、SDGsの考え方を踏まえた持続可能なむらづくりを目指すものとし、基本理念を「将来にわたり飛翔し続ける持続可能な鳳づくり」とします。

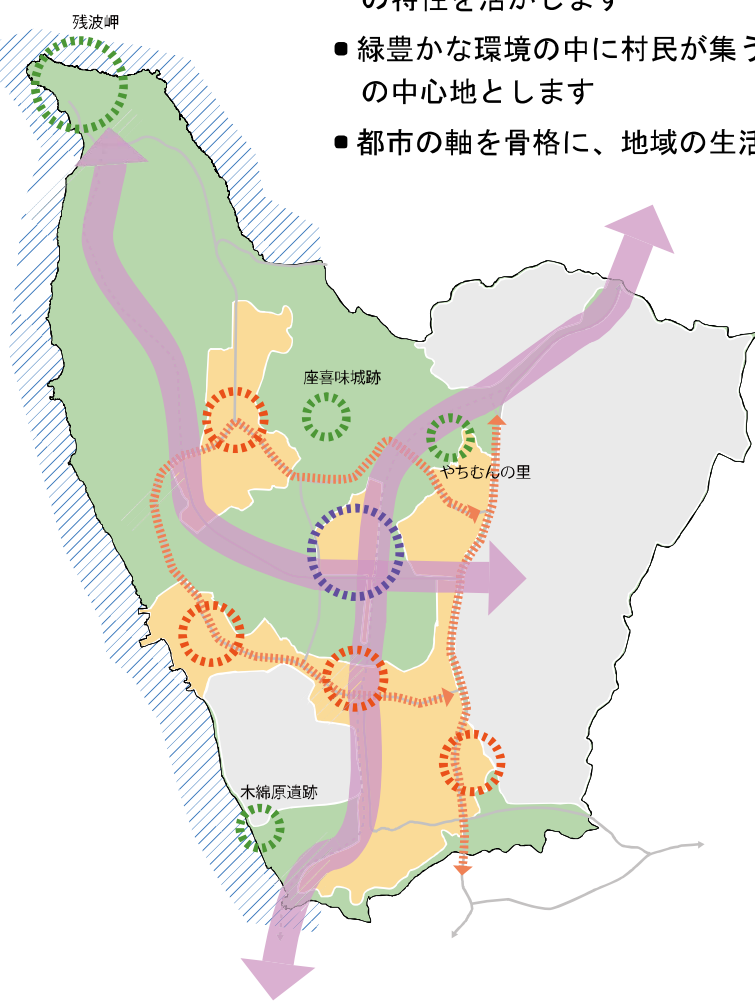
### 【 基本理念 】

## 将来にわたり飛翔し続ける持続可能な鳳づくり

## ④ 将来都市構造：土地の使い方、都市施設の配置や都市機能の集積等のあり方

### < 将来都市構造の考え方 >

- 本村を彩る海、森林、河川、さらに、のどかで豊かな環境を創り出す農村環境の特性を活かします
- 緑豊かな環境の中に村民が集う場、「森の中の村民センター地区」を村民活動の中心地とします
- 都市の軸を骨格に、地域の生活拠点を結び、まとまりある市街地を形成します



ゾーン	機能ごとの土地のまとまり 大まかな土地利用のあり方を示す	
	市街地ゾーン	
	農住・自然環境ゾーン (米軍施設・区域)	

拠点	日常生活や都市活動の中心地 各機能の集積を図るべき場所を示す	
	村民センター	
	地域生活拠点	
	観光文化交流拠点	

軸	都市を形成する骨格 人や物の動線、結びつきを示す	
	都市軸	
	生活交流軸	



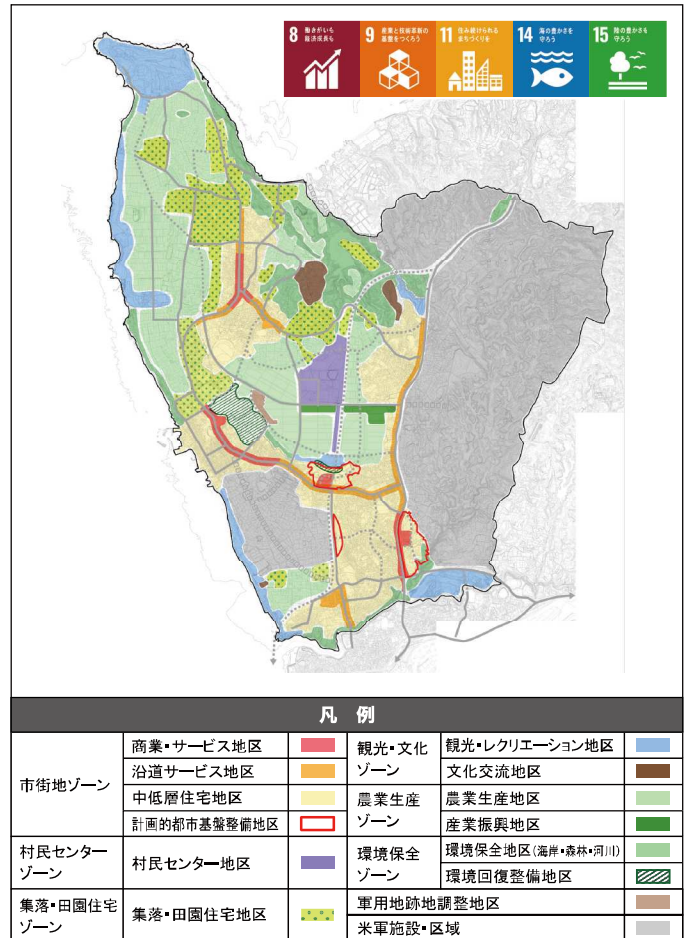
## 土地利用計画

### 自然環境と調和とした土地利用

本村はサンゴ礁の海、森林、河川など豊かな自然環境と、それらと調和した土地利用が行われており、これが本村の骨格となっています。今後も、これらの自然環境を保全し、未来へ継承していくため、自然環境と調和した土地利用を推進します。

### 計画的な土地利用の推進

本村はこれまで一貫して人口が増加してきましたが、将来的には人口の減少が予想されています。そのような状況の中、将来にわたり、活力があり、持続可能な地域であり続けるために、無秩序な市街地の拡大を防止し、都市機能や開発を適切に誘導し、計画的な土地利用を推進します。また、今後の住宅需要については、計画的都市基盤整備地区への誘導を図ります。



## 市街地整備計画

### 今後の住宅需要を誘導する都市基盤の整備

無秩序な市街地の拡大の防止や計画的な土地利用を推進するため、南部地域の基地跡地については、今後の宅地需要の誘導を図る計画的都市基盤整備地区として、現在、行われている土地区画整理事業を引き続き推進するなど、宅地や道路・公園等の都市基盤を計画的に整備します。

### 農業生産基盤と調和した集落・田園住宅地区の整備

本村ではこれまでの米軍基地跡地利用においても農業生産を基本とした跡地利用を積極的に行い、整備された農村環境は本村の骨格となっています。その骨格を引き継ぎ、農業生産基盤と調和した集落・田園住宅地区の形成を図ります。



## 道路・交通計画

### 都市活動や地域交流を促進する交通ネットワークの形成

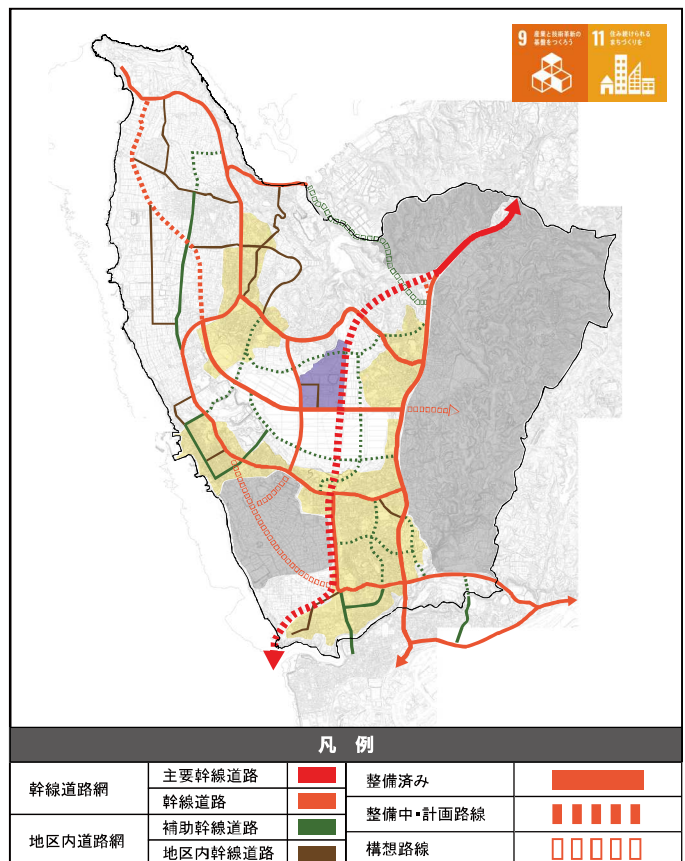
本村は日常の通勤・通学や観光など周辺市町村と強いつながりがあり、村内でも地域をまたぐ移動が多くあります。周辺市町村との連携、村内の各地域間の連携を強化していくため、村民の生活や地域を支える交通ネットワークの形成を推進します。

### 安全・安心な生活道路の形成

本村の既成市街地では狭い道路など平常時・災害時ともに危険を抱える道路が多く存在しています。将来にわたり地域に住み続けられるよう、災害に強い道路網の形成を推進します。

### 地域に住み続けることのできる公共交通ネットワークの形成

高齢化も進展していることから、地域コミュニティや生活利便性を維持することができる公共交通ネットワークの形成を推進します。



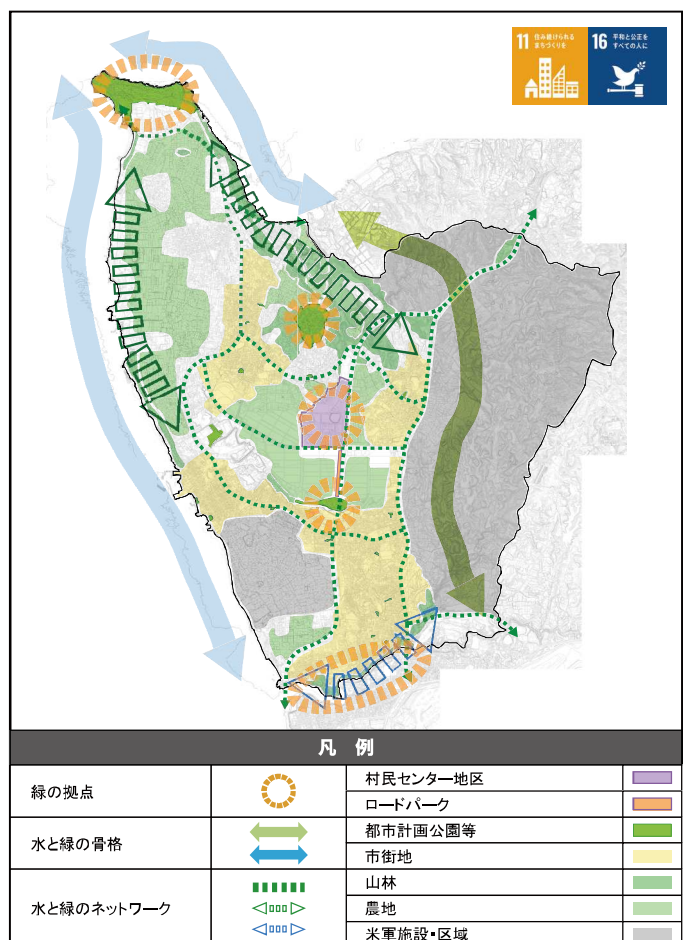
## 公園・緑地計画

### 水と緑のネットワークの形成

本村の豊かな自然環境は大切な資源で、多くの人を魅了し、本村の骨格を形成しています。この自然環境を未来に継承していくために、保全を行うとともに、公園・緑地を適切に配置し、水と緑のネットワークの形成を推進します。

### 適切な維持管理と有効利用

本村の公園等については、多くが整備済みであり、整備する段階から活用する段階に移行しています。整備された公園を今後も有効的に活用していくため、村民と協働したきめ細やかな維持管理や土地の持つ価値を活かした利用の促進等を推進します。





## 下水道・その他の公共公益施設に関する計画

### 汚水処理施設整備による快適な生活環境の整備

快適な生活環境の整備のため、公共下水道の面的な整備を推進し、また、農業集落排水施設や個別合併浄化槽施設を適切に組み合わせた汚水処理を図ります。

### 公共公益施設の適切な維持管理

次世代に可能な限り負担を残さないよう、施設の老朽化や財政状況を踏まえた適切な維持管理を図ります。

### 民間活力の活用

汚水処理施設や公共公益施設の整備・維持管理にあたっては、民間活力を活用した官民連携事業の検討を行います。

### 【下水道・その他の公共施設】



楚辺浄化センター

### 【防災計画】



防災訓練の様子

## 防災計画

### いつまでも住み続けることのできる防災対策の実施

本村では、これまで大雨による浸水被害を度々受けてきたほか、西海岸沿いでは津波浸水想定がされるなど災害のリスクがある地域です。これらの災害に対応し、いつまでも住み続けられるむらづくりを推進するため、読谷村地域防災計画と連携しながらハード・ソフト両面から適切な対策を図ります。

## 環境・景観計画

### 読谷らしさを形づくる景観の維持、活用、継承

本村の恵まれた自然や歴史・文化が織りなす美しい景観は読谷らしさや村民の心象風景を形づくるものとなっています。景観計画等と連携し、この自然や歴史・文化が織りなす景観を守り、創り、育て、誰もが享受するとともに、後世に引き継ぐことのできる景観の形成を推進します。

### 自然や歴史・文化と調和した農村・都市の景観形成

本村の農村や都市の景観は自然や歴史・文化とあわせて読谷らしさを形づくる重要な景観です。自然や歴史・文化と調和した美しく魅力的な景観形成を推進します。

### 【環境・景観計画】



残波岬の景観

### 【協働のむらづくり】

## 協働のむらづくり

### 協働のむらづくりの推進

本村は、戦後の混乱を皆で乗り越え、その協力する心は現在でも引き継がれています。本計画の実現には、むらづくりの主体となる村民との協働が重要であることから、協働のむらづくりに向けた環境づくりを推進します。また、村民の自発的なむらづくりを推進します。



むらづくりの検討に関するワークショップ

# 3 地域別構想

本村を小学校区を基本とした5地域に区分し、各地域のむらづくりの方針を示します。

## 渡慶次小学校区

### 基本目標

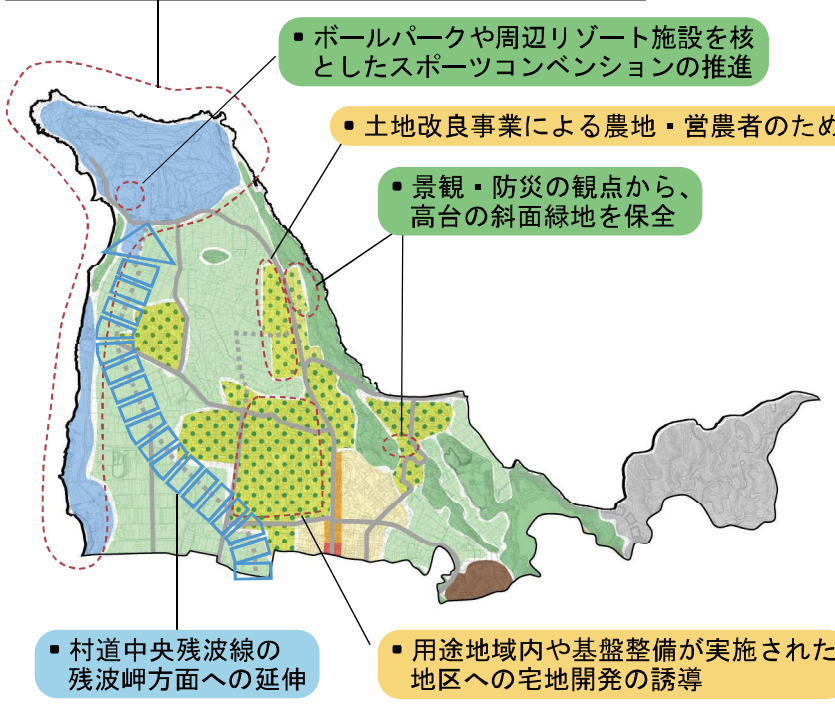
#### 残波岬をはじめとする自然環境を活かした田園集落地区形成

- 残波岬をはじめとした地域資源を活かし、スポーツコンベンション等多角的な取り組みによる地域の振興
  - 残波岬やサンゴ礁の海等の自然環境を引き続き保全するとともに、観光の振興や自然交流・自然体験の場として活用するなど、地域の振興を図ります。
- 西海岸等の豊かな自然環境や良好な営農環境と調和した住環境の維持・向上
  - 自然環境や営農環境と調和した、ゆとりあるのどかな住環境を維持していくために、適切な土地利用のコントロールや計画的な土地利用の推進を図ります。
  - 地域の生活利便性を高めるために、都市機能が集積する地域生活拠点との連携強化や集落でのサービス施設の維持・創出による住み続けられるむらづくりを図ります。

### 地域づくり方針図

- 残波岬や西海岸を活かした土地利用や観光開発
- 残波岬、西海岸、海岸沿いの自然環境の保全
- 養浜、防風・防潮林の保全
- 地形に馴染むスカイラインの形成、残波岬周辺の構造物の設置抑制
- 村民の海浜利用の確保

- 全体**
- 用途地域外の集落における規制・誘導手法の調査・研究
  - 農村環境の維持・向上
  - 狭あい道路の解消
  - 公園や広場等の整備推進
  - 生活排水対策、雨水排水対策の推進



**凡例**

●	土地利用に関する項目
■	道路・交通に関する項目
■	都市環境に関する項目

**凡例**

市街地ゾーン	商業・サービス地区	■
	沿道サービス地区	■
	中低層住宅地区	■
	計画的都市基盤整備地区	■
村民センターゾーン	村民センター地区	■
集落・田園住宅ゾーン	集落・田園住宅地区	■
	観光・レクリエーション地区	■
観光・文化ゾーン	文化交流地区	■
	農業生産地区	■
農業生産ゾーン	産業振興地区	■
	環境保全ゾーン	環境保全地区(海岸・森林・河川)
環境保全ゾーン	環境回復整備地区	■
	軍用地跡地調整地区	■
米軍施設・区域		■

## 基本目標

### 西海岸等の自然環境や営農環境と調和した村北部の拠点形成

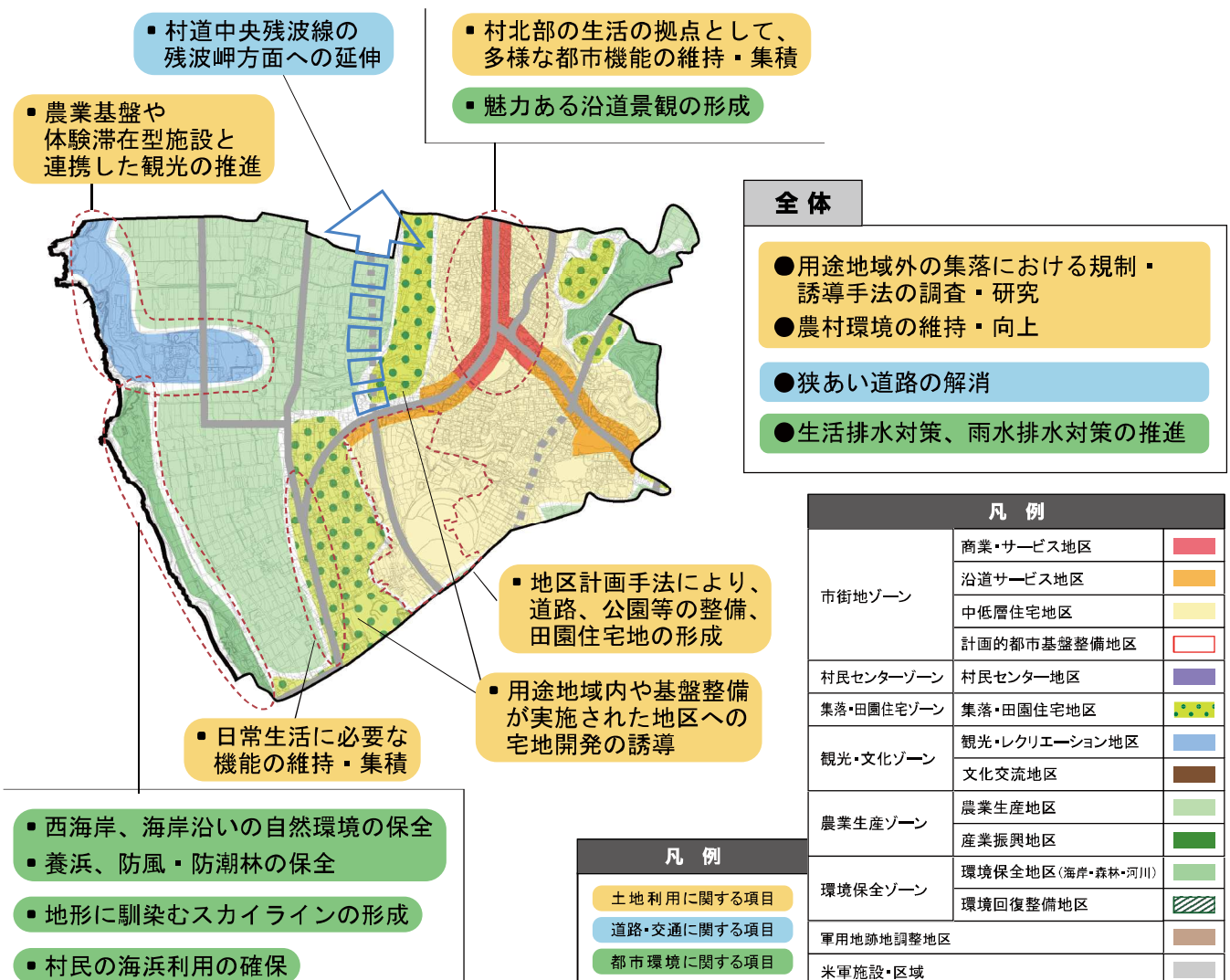
#### ■村北部の生活拠点の形成と定住環境の整備

- 現在の都市機能の集積を活かし、村北部の生活利便性を確保していくため、読谷中学校跡地の活用をはじめ、都市機能の維持・集積による村北部の拠点形成を図ります。
- 拠点形成における都市機能誘導や周辺の都市基盤整備と一体となった市街地の再編など、安全・安心な定住環境の形成を図ります。

#### ■西海岸等の豊かな自然環境等の保全とそれを活かした地域振興

- 豊かな自然環境と良好な農業基盤等の保全に向けて、適切な土地利用コントロールを図ります。また、これらの地域資源を活かし、体験滞在型施設とも連携を図りながら、新たな価値創造を促す地域の振興を図ります。

## 地域づくり方針図





## 基本目標

### 本村の歴史・ひと・もの・文化を結び、発信する黄金環の形成

#### ■世界遺産 座喜味城跡やヤチムンの里を核とした歴史・文化の拠点形成

- ざきみじょうあと
 ■座喜味城跡やヤチムンの里を核として、周辺地域一体の都市空間や景観を保全し、本村の歴史や文化を現在、そして将来に伝える歴史・文化の拠点を形成します。
- ざきみじょうあと
 ■座喜味城跡やヤチムンの里等と調和した歴史と文化が薫る住環境の形成を図ります。

#### ■本村、村民活動の中心地となる村民センター地区の形成

- 村民センター地区については、現在の機能の維持や新たな機能の整備を図り、人々が集い、健康で賑わいのある拠点の形成を図ります。
- 平和の森球場をはじめとするスポーツ交流施設等を活かし、スポーツを通じた本村の魅力向上を図ります。

#### ■本村の基幹産業である農業を支える地区形成

- 生産・販売・物流機能等の向上を図り、6次産業化の推進など、本村の基幹産業である農業を支える産業振興地区の形成を図ります。

## 地域づくり方針図

- 本村の歴史や文化を現在に伝える拠点形成
- 歴史文化資源と調和した土地利用
- 世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアムを核とした地域振興
- 歴史文化資源の適切な保全と維持管理
- 地区の持つ歴史や文化と調和した景観の形成

- 地区計画手法等の活用による、良好な住環境の整備

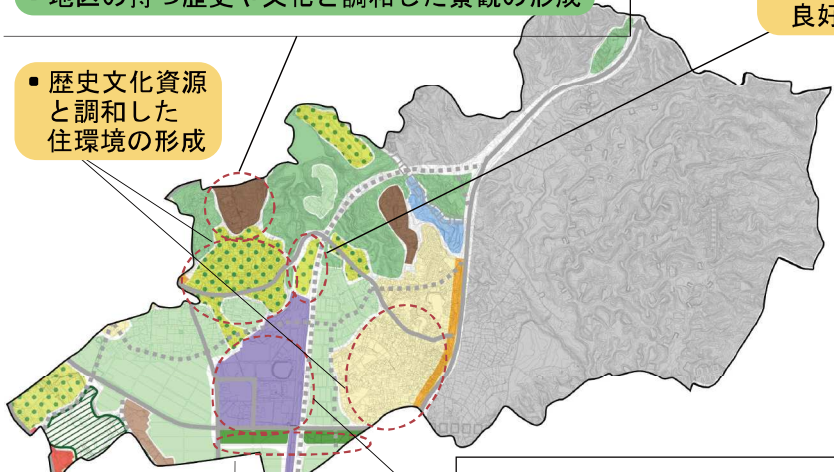
- 歴史文化資源と調和した住環境の形成

- 農産品の流通・販売機能等の土地利用の維持・向上
- 地域振興センター等を中心とした賑わい拠点の形成

- 本村、村民活動の中心地として、新たな機能整備

- 緑あふれる森の中の村民センター地区の形成

- スポーツコンベンションの推進等による本村・地域の新たな価値創出、地域振興



### 全体

- 沖縄西海岸道路（読谷道路）の整備や村道親志波平線等の整備をはじめとする地域間連携強化
- 狭あい道路の解消
- 生活排水対策、雨水排水対策の推進

### 凡例

- 土地利用に関する項目
- 道路・交通に関する項目
- 都市環境に関する項目

凡例		
市街地ゾーン	商業・サービス地区	■
	沿道サービス地区	■
	中低層住宅地区	■
	計画的都市基盤整備地区	■
村民センターゾーン	村民センター地区	■
集落・田園住宅ゾーン	集落・田園住宅地区	■
観光・文化ゾーン	観光・レクリエーション地区	■
	文化交流地区	■
農業生産ゾーン	農業生産地区	■
	産業振興地区	■
環境保全ゾーン	環境保全地区(海岸・森林・河川)	■
	環境回復整備地区	■
軍用地跡地調整地区		■
米軍施設・区域		■

## 基本目標

### 本村の新たな玄関口と地域の生活を支える拠点形成

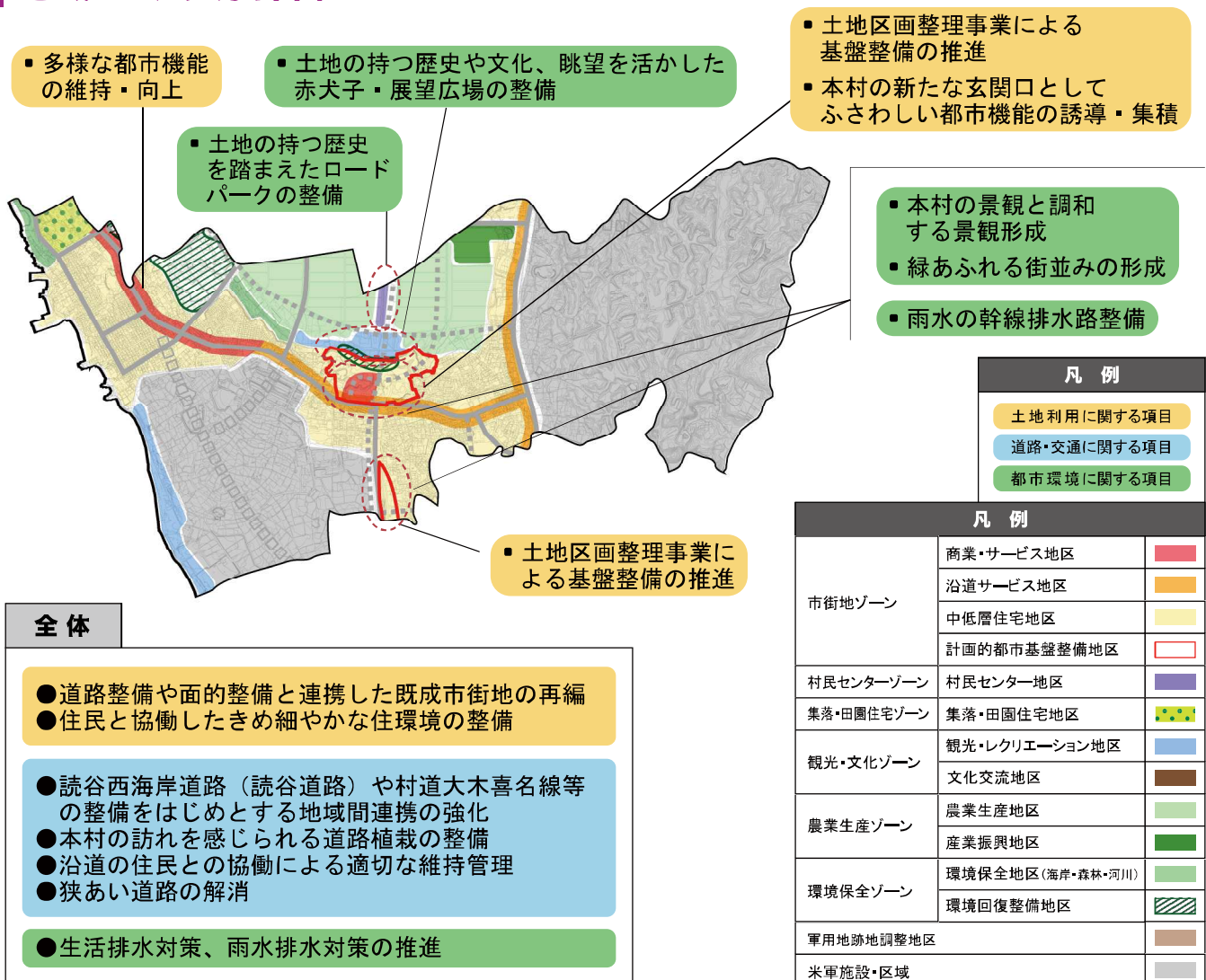
#### ■本村の新たな玄関口と地域の生活拠点の形成

- 大木地区については、立地条件を活かした本村の新たな玄関口として、また、地域の生活利便性を確保するため、都市機能の立地誘導や住宅地形成など、新たな拠点形成を図ります。
- ロードパークや赤犬子・展望広場は、玄関口として住む人・訪れる人の憩い・交流の場として整備を図るとともに、村民センター地区を結ぶシンボル性の高い空間の創出を目指します。

#### ■生活を支える都市基盤の形成と定住の促進

- 本村の中心的な居住の場として、良好な都市基盤の形成と定住の促進を図ります。
- 大木南地区をはじめ、今後の住宅需要を誘導する新たな住宅地の整備及びこれら市街地整備を契機とした周辺市街地の再編に向けた取り組みを進めます。
- 楚辺・都屋周辺については、地域の生活を支える拠点形成を図ります。

## 地域づくり方針図



## 基本目標

### 本村の玄関口と中心的な定住の場の形成

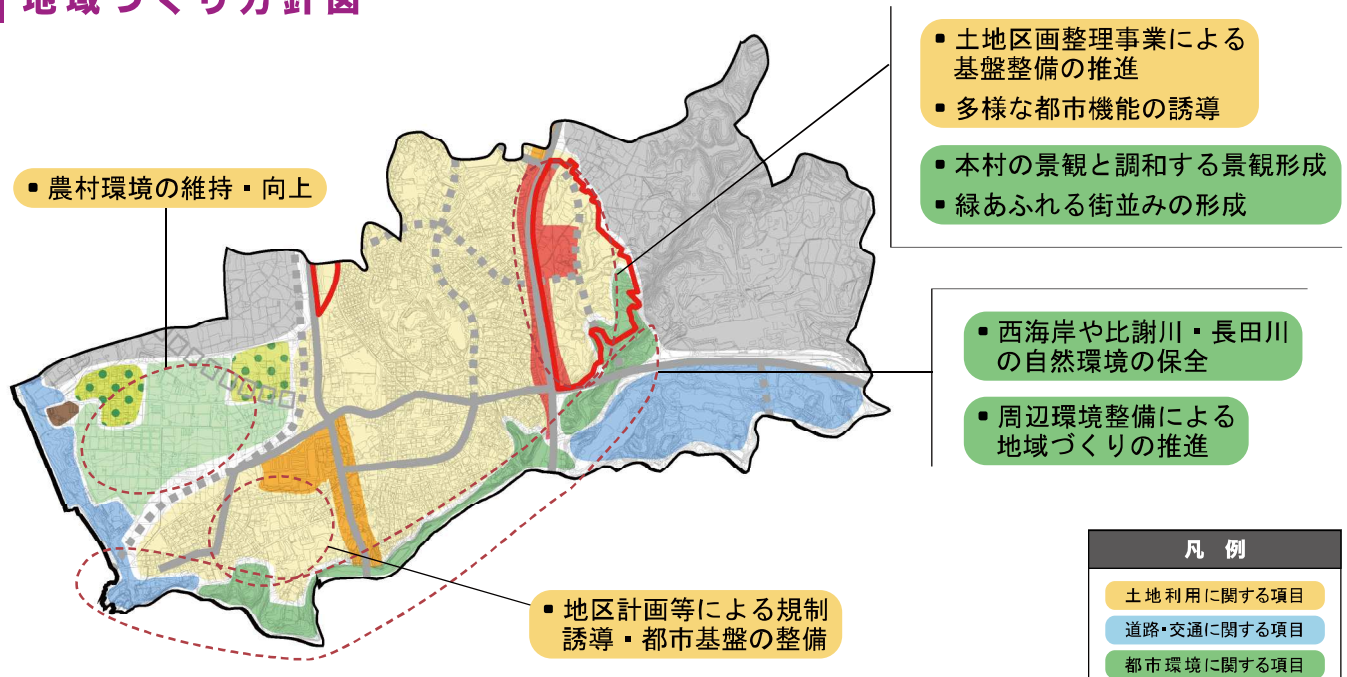
#### ■広く都市圏に開かれた本村の定住拠点の形成

- 大湾東地区については、本村の玄関口として都市機能の立地誘導による新たな拠点形成と周辺都市圏へのアクセス性を活かした本村の中心的な定住環境の創出を図ります。
- 西海岸や比謝川等の豊かな自然環境と連携しながら質の高い住宅地整備により、定住促進を目指します。

#### ■西海岸や比謝川等の豊かな自然環境と良好な農業基盤を活かした地域の振興

- サング礁の海や比謝川・長田川等の自然環境、農村環境を引き続き保全するとともに、交流・体験農業等の推進による地域の振興を図ります。

## 地域づくり方針図



### 全体

- 道路整備や面的整備と連携した既成市街地の再編
- 住民と協働したきめ細やかな住環境の整備
- 沖縄西海岸道路（読谷道路・嘉手納バイパス）や（仮称）村道比謝横断線の整備をはじめとする地域間連携の強化
- 本村の訪れを感じられる道路植栽の整備
- 沿道の住民との協働による適切な維持管理
- 歩行者が安全に歩けるような道路環境の整備・改善
- 狭あい道路の解消
- 地域に残る文化財の保全と活用
- 生活排水対策、雨水排水対策の推進

### 凡例

- 土地利用に関する項目
- 道路・交通に関する項目
- 都市環境に関する項目

### 凡例

市街地ゾーン	商業・サービス地区	■
	沿道サービス地区	■
	中低層住宅地区	■
	計画的都市基盤整備地区	■
村民センターゾーン	村民センター地区	■
集落・田園住宅ゾーン	集落・田園住宅地区	■
観光・文化ゾーン	観光・レクリエーション地区	■
	文化交流地区	■
農業生産ゾーン	農業生産地区	■
	産業振興地区	■
環境保全ゾーン	環境保全地区(海岸・森林・河川)	■
	環境回復整備地区	■
軍用地跡地調整地区		■
米軍施設・区域		■



## 4 計画の実現に向けて

### 協働のむらづくりの推進



#### ① 情報の共有・公開: むらづくりを気づく、知る

- 本計画の積極的な広報
- その他、現状や各種計画、取り組みの積極的・継続的な広報



#### ② 村民参加機会の充実: むらづくりに関わる

- 村民の皆さまが抱えている課題について、行政懇談会や自治会活動を通じて把握
- 各種計画や取り組みについて、パブリックコメントや意向調査、ワークショップ等を通じて意見交換



#### ③ 村民によるむらづくりの実践: むらづくりを実践する

- 良好な住環境の形成等を進める地区計画、各種協定の活用
- 自治会との連携
- 現在暮らしている村民とこれから本村に転入してくる村民が協力した取り組みを推進

### 実現化に向けた取り組み

#### 推進体制の構築

- 都市計画分野だけでなく、農業、商業、観光、環境など様々な分野と連携した取り組みが重要となることから、関連各課との調整を密に行いながら取り組みの推進を図ります。
- 研修や実際のむらづくり活動を通じて、役場職員の専門性を高めるなど、庁内の人材育成にも取り組みます。
- 国や県をはじめとする関係機関と密に連携を図りながら、関連する計画・取り組みと連携をとり、一体的なむらづくりを推進します。

#### 進行管理と見直し

- 本計画に沿ったむらづくりの実践は長期の時間を要することから、随時、むらづくりの状況の確認を行うとともに、必要に応じ本計画の見直し・改善を行います。
- 本計画の推進を図りながら、課題やニーズを把握し、むらづくりの状況の確認を行います。
- 計画期間である10年後を目安に本計画を見直すこととしますが、社会情勢の変化やゆたさむらビジョン等の上位関連計画の更新を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

### 読谷村第3次都市計画マスタープラン

発行: 読谷村建設整備部都市計画課 / 〒904-0392 読谷村字座喜味 2901 番地

TEL: 098-982-9220 / FAX: 098-982-9219 / E-mail: info-tokei@yomitan.jp

読谷村第3次都市計画マスタープランの本編は読谷村ホームページでご覧いただけます